

2番果の遅れと矮化回避対策

本年は品種を問わずに定植後の高温乾燥で頂果と腋果の内容数増加や分化のバラツキ展開停滞となっています。

《対策》

◎N（硝酸態）は土壌中に比較的に残肥として残っており追肥には低N成分の液肥とする（ウルル5号・18号）

◎総合環境制（炭酸ガス、日没加温、温・湿度保持、芯葉への受光、早朝加温・電照）

◎芯葉の展開を良くする液肥の施肥

①フシヨクフル5kgを5～7日に灌水処理

②アミクエ5kgを5～7日に灌水処理

③コラーゲン・ラボ500倍の葉面散布

芯葉の小葉現象と
展開遅れ
(N濃度30k～)

